

平成30年度
地域福祉コーディネーター
活動報告

江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課 地域支援係

目次

30年度の活動を振り返って	2
1. 江東社協版地域福祉コーディネーターについて	3
2. 地域福祉コーディネーターの設置状況	5
3. 平成30年度 相談・支援実績	7
4. 平成30年度 地域福祉コーディネーター行動記録	9
5. 平成30年度 地域福祉コーディネーター活動事例集	12

平成 30 年度を振り返って

江東区社会福祉協議会では、深刻化する社会的孤立や生活困窮者の増加、引きこもり、虐待などの社会問題に「声をあげられない方を必要な支援に結びつけること」や「困ったときに助けを求められる環境を作ること」が重要であると考え、それを支援する地域福祉コーディネーターを平成 28 年度より区内 4 圏域に 8 名、配置をいたしました。

3 年目を迎えた平成 30 年度には、地域福祉コーディネーターのアウトリーチ拠点となる『「社協カフェ」みんなの居場所』の充実と地域福祉コーディネーターとともに地域課題に取り組む『地域福祉サポーター(ボランティア)』の育成を重要課題として活動に取り組みました。これらの取り組みを通し、地域の皆さんや地域関係機関との連携が更に深まり、地域福祉コーディネーターの役割も徐々に認知され始めていると感じています。

地域福祉コーディネーターの認知が進むにつれて相談件数は毎年増加をしています。個人支援に関わる案件では、関係機関との連携が生まれたことで比較的スムーズに解決に結び付くケースが増える一方、深刻で複雑な困難ケースが多く寄せられるようになり、社会的孤立や生活困窮の問題は更に潜在化が進んでいると感じています。

また、地域支援に関わる案件では、「地域に繋がりを作りたい」という主旨の相談が多く寄せられ、自主的・主体的に地域の助け合いを作りたいという思いを持たれている方が沢山いることを実感しています。更に、地域という枠を越えて区内全域を視野に入れた「助け合いの仕組み」を作りたいというご相談も多くいただくようになりました。

今後も江東区社会福祉協議会では、地域福祉コーディネーターを中心としたアウトリーチの活動に力を入れ、地域の皆さんと力を合わせ、ひとつでも多くの課題を解決し、安心して暮らせる地域づくりを進め、区民の皆さんの幸せに結びつけたいと考えています。

江東区社会福祉協議会
地域福祉推進課

1. 江東社協版地域福祉コーディネーターについて

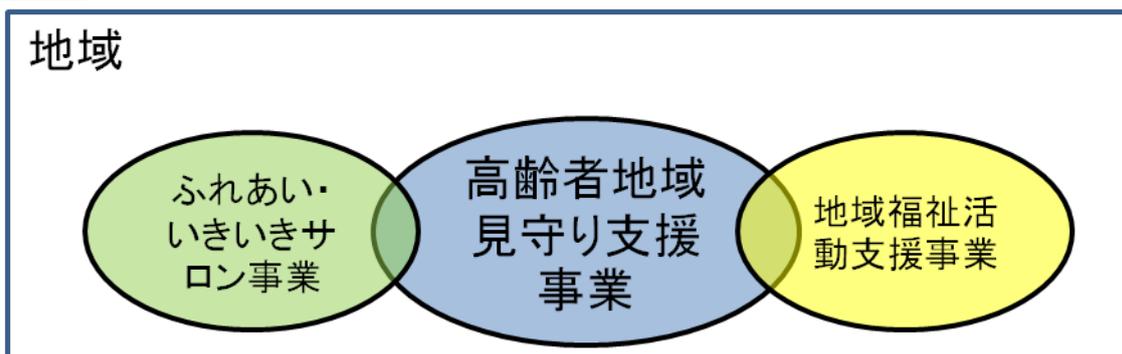
■ 地域福祉コーディネーターの役割

地域社会の人間関係が希薄化する中で、社会的孤立の問題は更に潜在化し、公助や互助が必要でありながら、支援に結びつかない案件が増えています。こうした「制度の狭間」で見えなくなっている問題や、助けが必要でも声を上げることのできない人を発見し、行政や地域の皆さんと協力しながら問題の解決や、必要な支援に結びつけていくことが地域福祉コーディネーターの役割です。

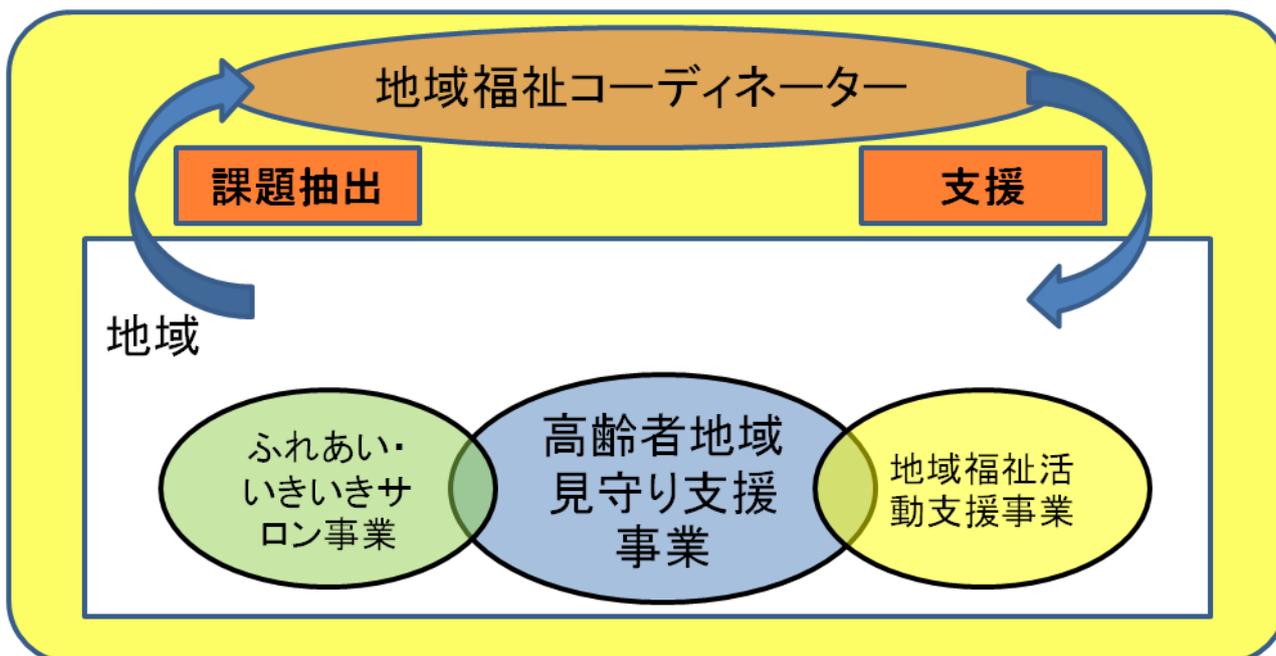
■ 地域福祉コーディネーターの取り組み

江東社協版地域福祉コーディネーターは、これまで社協が培ってきた地域とのつながりや「高齢者地域見守り支援事業」「ふれあい・いきいきサロン事業」等の既存事業を活用して地域課題を抽出し、課題解決に向け地域の皆さんや行政と協力しながら支援に取り組んでいます。

設置前



設置後



■地域福祉コーディネーターが実施する主な事業

○高齢者地域見守り支援事業

高齢者の社会的孤立や孤独死を防ぎ、区民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らすことができるよう、住民が主体となって取り組む見守り活動や支え合いの体制づくりを支援します。具体的には、先進地区の視察、セミナーの開催などを通じて見守りサポート地域を支援しています。

○生活支援コーディネーター

介護保険制度関連の生活支援サービスの提供に向けた、地域資源の開発やネットワークの整備を行うとともに、区内4地域における情報の共有、連携強化の場となる「下町支え合い会議」などを開催しサービス提供体制の整備を図っています。

○ふれあい・いきいきサロン

高齢者、障害者、子育て中の親子などが孤立しないよう、住民が自主的に運営していく仲間づくりの場の立ち上げから運営を支援しています。

○地域福祉活動支援事業

①拠点整備事業

地域福祉コーディネーターの活動拠点を区内4カ所に確保し、社協カフェ「みんなの居場所」にて、福祉総合相談、ボランティア相談、各種イベント、地域との連絡会等を開催しています。

②支援事業

地域団体（町会・自治会、マンション管理組合など）、ボランティアグループ、NPOなどが行う地域福祉活動（互助活動）などを支援しています。

例：見守りサポート地域等の運営支援

多世代交流の里 すなまちよっちゃん家

○地域福祉サポーターの養成

地域福祉コーディネーターと共に地域の困りごとや課題について考え、解決に向けた取り組みにご協力いただくボランティアを養成しています。

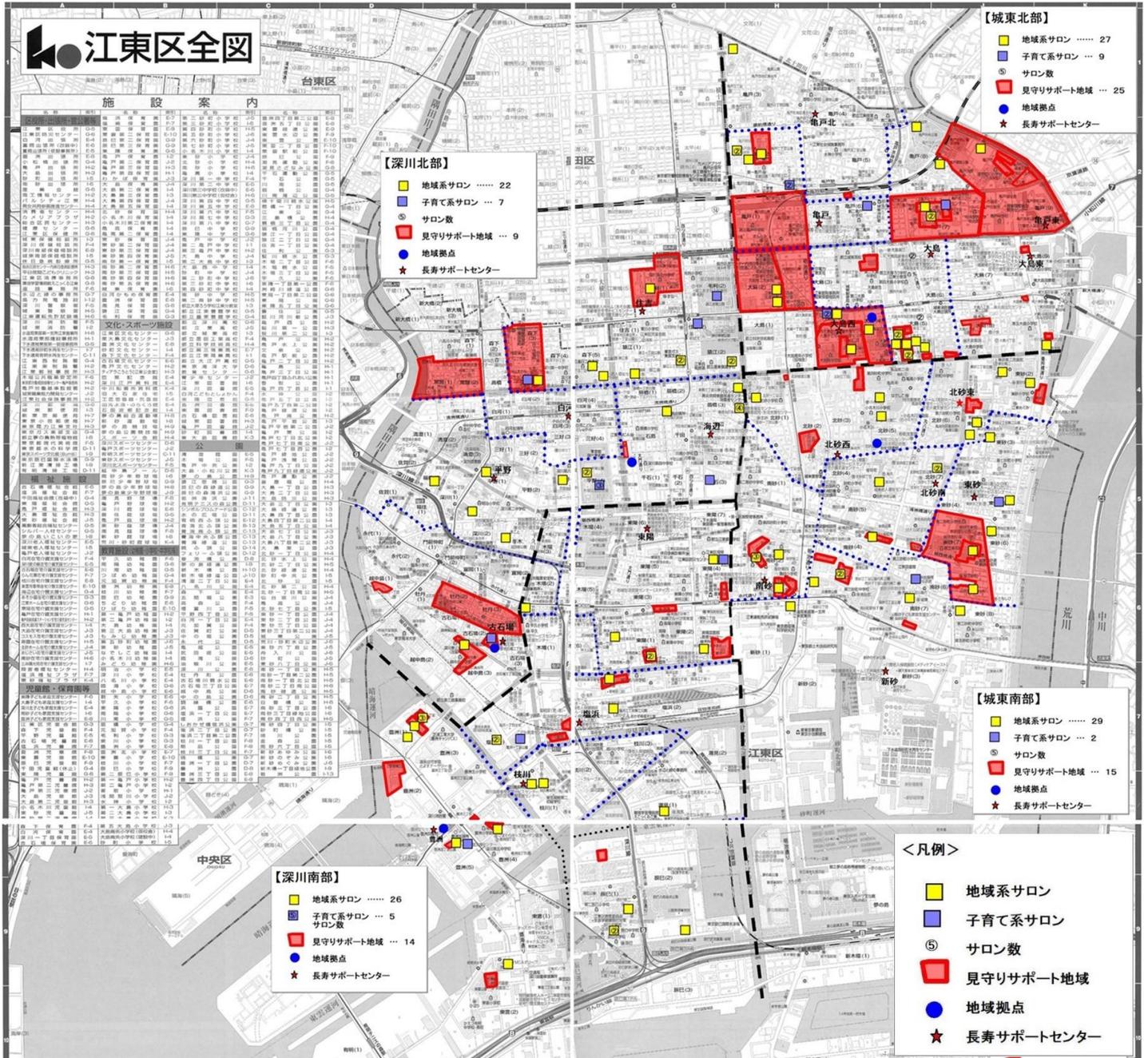
2. 地域福祉コーディネーターの設置状況



地域福祉コーディネーターの設置については、平成28年度より、生活圏域を基礎に区内を4地域に分け、地域ごとに職員2名（常勤・嘱託）を配置しました。

地域福祉コーディネーターは地域の身近な窓口となり、人と人とのつながりや地域で支え合う仕組みを地域の皆さんと一緒に作っています。また、地域を訪問する中で、地域の課題や個別の課題を見つけ、地域の皆さんと一緒に課題解決に向けて取り組んでいます。（次項「江東区内地域活動マップ」参照）

<江東区内地域活動マップ>



区内 4地域 地域資源

地域資源	地域資源			
地域	地域系サロン	子育て系サロン	サポート地域	長寿サポートセンター
城東南部	29	2	15	6
城東北部	27	9	25	6
深川南部	26	5	14	4
深川北部	22	7	9	5

3. 平成30年度 相談・支援実績

新規相談件数（前年度との比較）

地 区	相 談			
	個別相談		地域相談	
	H29	H30	H29	H30
城東南部	35	39	30	70
城東北部	27	21	42	20
深川南部	26	36	45	49
深川北部	12	17	23	18
合 計	100	113	140	157

個別相談…地域において生活上の課題を抱える個人や家族に対する相談

地域相談…住民が主体となる地域活動の立ち上げや運営に関する相談

主な相談内容（個別）

- ・隣人が急に弱ってきている。どうしたらよいか分からない。
- ・近所の一人暮らしの方がゴミ屋敷になっている。
- ・サロンのメンバーが最近認知症の症状があり心配なので相談に乗って欲しい。
- ・マンションの方で洗濯物が干しっぱなしになっている方がいるので心配。
- ・区内のこども食堂を紹介して欲しい。
- ・改修した実家をあまり使っていないため、福祉的なことに使いたい。
- ・終活をしていたら出てきたテレホンカードを寄付したい。
- ・サロンを見学したいので、紹介して欲しい。

主な相談内容（地域）

- ・居住地域が荒れている。エレベーター内のポスターもいたずらされており、どうにかしたい。
- ・見守り活動を検討している。サポート地域に申し込みたい。
- ・こども食堂を始めた。広報などについて相談したい。
- ・バザーの売り上げをこども食堂へ寄付したい。
- ・地域で勉強会を行いたいため、講師を紹介して欲しい。
- ・学習支援の場を作りたい。
- ・サロン・こども食堂を立ち上げたい。
- ・子育て系サロンの開催を検討中。どのような方法があるか。

相談経路

(個別相談)

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治会	近隣 住民	ボラン ティア	NPO 任意 団体	その他	合計
城東南部	16	1	8	1	2	10	1	0	39
城東北部	11	0	0	3	2	4	1	0	21
深川南部	10	3	13	2	6	1	1	0	36
深川北部	6	2	1	0	4	0	3	1	17
合計	43	6	22	6	14	15	6	1	113

(地域相談)

	本人 家族	民生 児童 委員	行政 関係 機関	町会 自治会	近隣 住民	ボラン ティア	NPO 任意 団体	その他	合計
城東南部	3	2	20	12	5	6	21	1	70
城東北部	0	0	4	8	0	0	8	0	20
深川南部	0	1	17	8	4	5	14	0	49
深川北部	1	0	7	2	2	0	6	0	18
合計	4	3	48	30	11	11	49	1	157

相談に対する支援活動件数

	個別支援	地域支援	合計
城東南部	276	831	1107
城東北部	149	709	858
深川南部	192	973	1165
深川北部	102	538	640
合計	719	3051	3770

4. 平成30年度 地域福祉コーディネーター行動記録

全統計（前年度との比較）

		個人直接支援			個人間接支援			地域支援			合計	
		関係形成	個別支援	連絡調整	関係形成	支援	連絡調整	関係形成	ネットワーク化	運営・活動支援		連絡調整
城 東 南 部	H30 (H29)	135 (61)	23 (19)	11 (21)	23 (19)	22 (13)	62 (58)	65 (45)	94 (25)	332 (225)	340 (200)	1107 (686)
城 東 北 部	H30 (H29)	23 (15)	13 (33)	4 (23)	16 (8)	28 (8)	65 (134)	29 (22)	34 (54)	295 (88)	351 (400)	858 (785)
深 川 南 部	H30 (H29)	15 (22)	26 (77)	30 (44)	9 (7)	16 (19)	96 (333)	62 (31)	51 (55)	220 (324)	640 (634)	1165 (1546)
深 川 北 部	H30 (H29)	30 (14)	38 (27)	8 (5)	3 (0)	3 (6)	20 (12)	94 (74)	18 (14)	111 (62)	315 (347)	640 (561)
合 計	H30 (H29)	203 (112)	100 (156)	53 (93)	51 (34)	69 (46)	243 (537)	250 (172)	197 (148)	958 (699)	1646 (1581)	3770 (3578)

行動内容分類

- | | |
|------------|--|
| (1) 個人直接支援 | 地域福祉コーディネーターが当事者に直接関わること |
| 1 関係形成 | 当事者との関係づくりのための行動 |
| 2 個別支援 | 直接支援のための行動 |
| 3 連絡調整 | 当事者本人との諸連絡・情報提供・情報収集・調整（訪問日・相談日の確認）等 |
| (2) 個人間接支援 | 地域福祉コーディネーターが当事者のために他の機関や団体と相談・調整すること |
| 1 関係形成 | 関係団体・グループとの関係づくりのための訪問・会議への出席、イベント参加 |
| 2 支援 | 間接支援のための行動 |
| 3 連絡調整 | 関係者との諸連絡・情報提供・情報収集・調整、書類渡し、会議調整等 |
| (3) 地域支援 | サロン・居場所づくり、町会・自治会支援、（外部との）企画打合せ・調整すること |
| 1 関係形成 | 住民・団体・グループの関係づくりのための訪問 |
| 2 ネットワーク化 | 地域団体・グループの立ち上げ支援、活動の立ち上げ支援及びネットワークの形成 |
| 3 運営支援 | 地域団体・グループ立ち上げ後の運営支援、見学、調査等 |
| 4 連絡調整 | 住民・団体・グループとの連絡や調整、地域福祉サポーターとの連絡調整 |

5. 平成 30 年度 地域福祉コーディネーター 活動事例集

目次

個別支援

1. 認知症の疑いがある高齢者への支援 13
2. 介護サービスへの申し込みが分からない方への支援 15
3. 近隣住民の心配事の解決 17
4. テレホンカードを寄付したい地域の方への支援 19

地域支援

5. 地域での新しい居場所づくり 21
6. 中高生の居場所づくりの支援 23
7. フードバンク江東の立上げ支援 25
8. サロンの立ち上げ支援と波及効果 27
9. 連携会議による展開 29
10. 地域で作る住民主体のミニデイへの支援 31

認知症の疑いがある高齢者への支援

相談内容

- 相談者 住民
- 相談内容

「社協カフェ」にて相談を受ける。近隣に住む高齢の女性が認知症のようで、心配。一人暮らしで、福祉サービスも利用していない様子である。

- ・ 服装の乱れがある。
- ・ 家の外に出て、うろうろしている。
- ・ 同じことを何度も聞いてくる。
- ・ 近隣のスーパーで同じ物を購入している。
- ・ 月に数回、遠方に住む息子が訪ねて来ている。

支援の流れ

相談を受けた後、状況確認のため訪問したところ、本人の拒否はなく、向かいの見守り登録をしている薬局を中心に、近隣の皆さんが緩やかに見守りをされていたことが分かる。

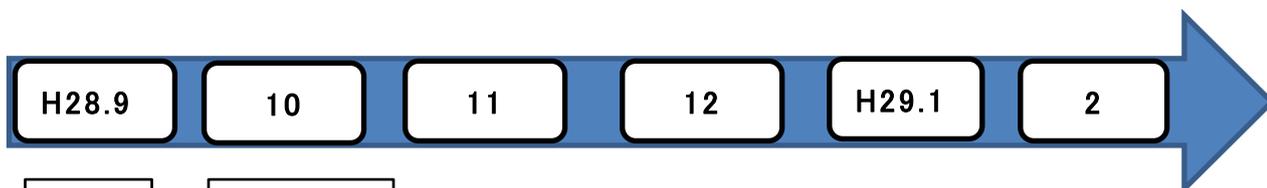
長寿サポートセンターは遠方に住んでいる家族と連絡を取っており、当面は福祉サービス利用の意向がないため、連携して見守りを継続することとなる。

その後、本人の認知症状が進行し、家族の都合により頻繁な訪問ができなくなったことから、介護保険を申請し、介護保険サービスの利用開始となる。それに伴い、ケアマネジャーが決まり、地域福祉コーディネーターは地域の方々の支援にも重点を置き、見守りが負担にならないよう働きかけた。

平成30年2月には、本人の支援について、関係機関が一堂に会する「地域ケア会議」が開催されて情報共有がなされたが、地域の方より一人暮らしは限界ではないかとの声も出る。

その後、介護抵抗や近隣の方が話しかけても本人が怒るようになってしまい、支援が難しい状況となる。一人で外出し、道に迷うことが続いたことから、息子宅に引き取られる。

息子宅に転居後は落ち着いて過ごされていることをケアマネジャーよりうかがい、見守りをされていた近隣の方に感謝を伝え、支援終了となる。

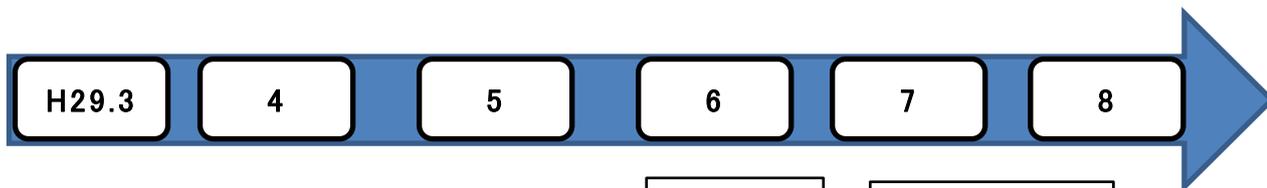


相談

関係機関へ連絡

継続して訪問(本人・近隣住民)

関係機関との情報共有

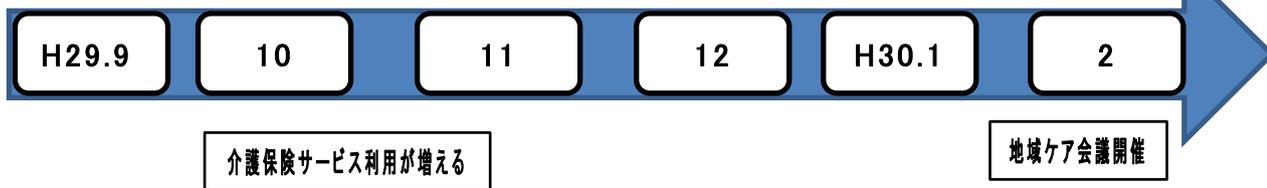


介護保険申請

介護保険サービス利用開始

継続して訪問(本人・近隣住民)

関係機関との情報共有

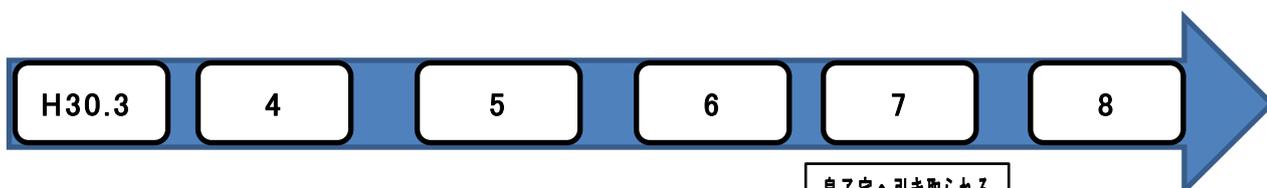


介護保険サービス利用が増える

地域ケア会議開催

継続して訪問(本人・近隣住民)

関係機関との情報共有



息子宅へ引き取られる

継続して訪問(本人・近隣住民)

関係機関との情報共有

成 果

近隣の皆さんが本人の異変に気づき、緩やかに見守りながら、訪問しただけでは知ることのできない普段の様子を伝えてくれるなど、地域と関係機関が連携しながら支援することができた。

認知症状が進む中、一人暮らしを継続できたことは、その連携の成果であり、他のケースにもつながる事例となった。

事例 2

個別 支援

介護サービスへの申し込みが 分からない方への支援

相談内容

- 相談者 ご本人
- 相談内容

ご近所ミニデイに通っていたが、最近足が痛く、昇降できなくなり行けなくなった。介護保険やサービスがあるなら、申し込みたいがどうしたらいいのか分からない。

支援の流れ

ご近所ミニデイ訪問時にご本人より「体調が悪くなり食欲がなくなった」と相談を受ける。

ご近所ミニデイの仲間も心配しており、後日近隣の居場所で話を聞くことになったが当日になり、ご本人が来ないため職員が自宅を訪問。エレベーター前で偶然出会いそのまま自宅で面接を行った。

話を聞く中で「最近ボケてきた、足が痛くて外に出られない、もう死にたくなってしまふ。どうしていいかわからなかった。」と涙ぐみながら話していた。また、「介護保険等も申し込みたいが、足が痛く役所にも行けない」と話しているため役所に行かずとも申し込みが可能なことをお伝えし、長寿サポートセンターへ架電し翌日訪問が決まる。ご近所ミニデイの運営主体にも情報共有した。



成果

ご近所ミニデイの参加者に情報収集を行い、長寿サポートセンターと連携が速やかに取れたことで、介護保険サービス利用への手続きが迅速に行われた。

今後の方向性

長寿サポートセンターと連携するも、高齢であることと身体の状態もあり入院となる。後退院後自宅で生活される際には、今まで参加されていたご近所ミニデイへの参加ができるようサポートできる環境を検討したい。

近隣住民の心配事の解決

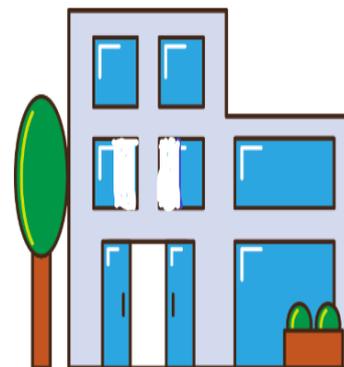
～地域福祉サポーターからの相談～

相談内容

- 相談者：地域福祉サポーター（※1）
- 相談内容

ポストに郵便物があふれていて、ふたもきちんと締まらない状態で、お隣さんに声掛けしてみたところ、住人（高齢者）が半年近く所在不明。住人は町会には入っていない様子。

一戸建ての2階の窓が開いたままで不用心でもあるので、隣としては気がかりだとの話が聞けた。安否を確認したい。



支援の流れ

① 状況調査

すぐに現地の状況を確認。近隣住民から話をうかがう。

② 関係機関との連携

長寿サポートセンター（※2）へうかがい情報収集するが、情報はないため、65才未満の可能性がある。電気量検針訪問員にも聞き取りしたところ、半年ぐらい電気は使われていないという。

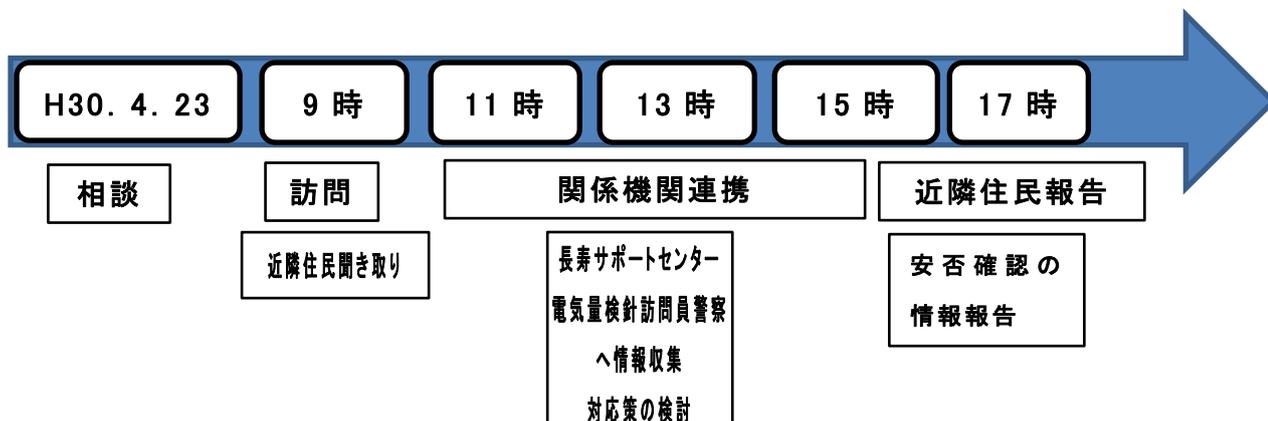
警察へ事情を説明し、警察でも情報を収集していただくことになる。

消防とも連携を取り、入室する際は、地域福祉コーディネーターが立ち会うこととなる。

しかし、警察の調べにより本人の安否は確認されたとの報告が入る。

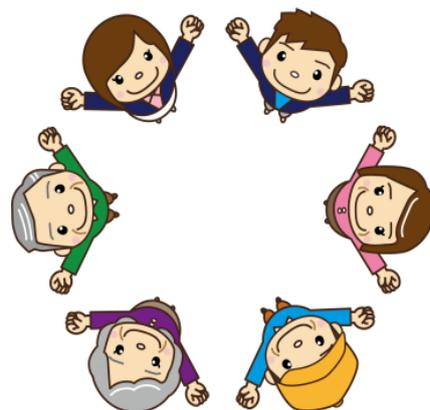
③ 近隣住民への報告

相談者（地域福祉サポーター）と近隣住民に対して、安否確認ができた旨を報告し相談は解決となる。



成 果

養成した地域福祉サポーターが地域のアンテナ役となり、地域福祉コーディネーターに情報をつなぐことで、問題解決に至った。近隣の方への社協の地域福祉コーディネーターの役割の周知にもつながった。



課 題

昔ながらの一戸建ての住宅が密集している地域であるが、近隣の方たちは、半年間気になりつつも、対応をこまねいていた。人と人との関係が希薄化するなか、地域福祉コーディネーターとして、地域のつながりを築いていく必要がある。

(※1) 地域福祉サポーター

社協の『地域福祉コーディネーター』と一緒に地域の課題や困り事の解決に取り組んで頂ける、『地域福祉サポーター』の養成講座を修了したボランティアの呼称。

(※2) 長寿サポートセンター

長寿サポートセンターは、介護保険法に基づく「地域包括支援センター」で、保健師（看護師）、社会福祉士、主任介護支援専門員などの専門職が、互いに連携しながら、「チーム」として活動し、高齢者の方が住みなれた地域で暮らしていけるよう支援している65歳以上を対象とする高齢者の相談窓口。

事例 4

個別 支援

テレホンカードを寄付したい 地域の方への支援

相談内容

- 相談者 住民
- 相談内容

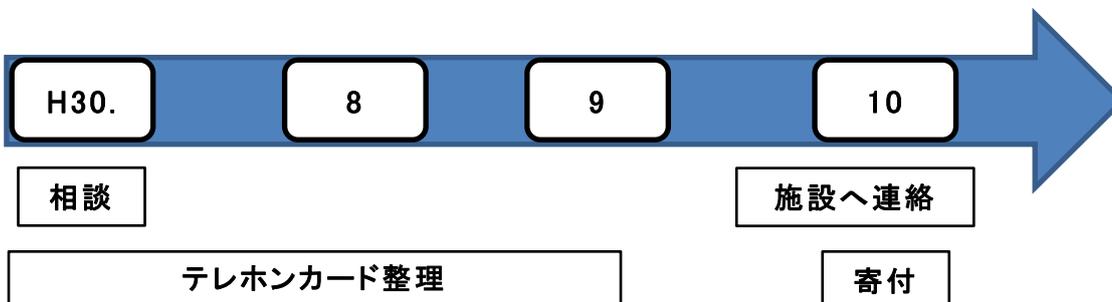
終活の一環で掃除をしていたら、テレホンカードが 20 枚ほど出て来た。
どこかに寄付できないだろうか。

支援の流れ

地域福祉活動拠点整備事業として開催している「社協カフェ『みんなの居場所』」の福祉総合相談コーナーで相談を受ける。

区内の状況をインターネットで確認したところ、難病と闘う子どもとその家族のための宿泊施設がテレホンカードの寄付を受け入れていることが分かる。その旨情報提供を行うと「参加しているふれあい・いきいきサロンのメンバーの中に、使わないテレホンカードをお持ちの方が他にもいないか声をかけてみる」とのことで、連絡を待つことになる。

2ヶ月後、テレホンカードが 30 枚ほど溜まったと連絡が入る。受け入れ施設に地域福祉コーディネーターから連絡を入れ、訪問可能な日時を調整。相談者、同様に寄付を行うサロンメンバー、地域福祉コーディネーターの三者で当該施設へ訪問し、直接寄付を行った。



成 果

地域福祉コーディネーターの介入によって、自分の持っている物を社会に役立てたい方と、それを求めている施設、ひいてはその利用者の方々をつなげることができた。

施設職員からは、テレホンカードの寄付を受け付けている趣旨について、「難病の治療のため、実家から遠く離れた病院で専門的な治療を受ける子どもなどが通話料を気にすることなく離れて暮らす家族と通話することができるようにとの思いから」と説明を受けた。治療を受ける本人や、共に滞在する家族にとって居心地の良い空間となるよう工夫された館内の見学もさせていただくことができ、寄付をされた相談者、サロンメンバーとも、病を抱えた方々の福祉に貢献できたとの思いからかとても満足されており、お互いに良い結果となった。

今後の方向性

寄付の相談があった際には、社協として受け入れ可能なものでない場合にも、受け付け先がないかを探し、寄付者と受付者との間をつなぐことで、住民の地域福祉活動への動機を高め、助け合いの活動を推進していく。



寄付時の様子

地域での新しい居場所づくり

地域課題

○相談者：NPO 法人 A

- ・高齢化率が 30%を超える地区ではあるが、高齢者が集える場所がない。
- ・唯一地域に誰でも利用できるフリースペースがあるが、あまり活用されていない。

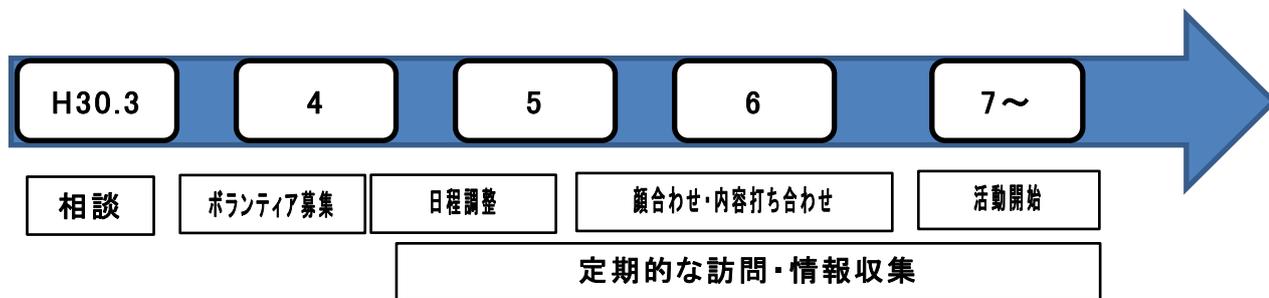
そのようなこの地域で、気軽に集えるフリースペースをもっと有効活用し、住民が集える居場所づくりを協力してほしい。

支援の流れ

まずは、近隣地区に住む地域福祉サポーターの協力のもと、新しい居場所の創設に向け関係機関を含め話し合いをおこなうこととした。そこで、この居場所をどのように住民に対し周知するのか・想定される利用者を考え開催日・時間を決定した。

次に、その場所で何をするのかについて話し合った。最初はお互い知らない方同士でおしゃべりができる場という案が挙がった。話し合いが進むなかで運動をメインで行うことがいいのではないかととなり、地域福祉サポーターが「ぜんぜん頑張らないうんどう(※)」の指導者のため地域福祉サポーターを中心に 1 時間運動をおこない、1 時間みんなでお話をする流れに決定する。

居場所ができ、活動が始まると、地域福祉サポーターの 1 人が傾聴のボランティアをしていたこともあり、一緒に傾聴の活動をしている方々が地域ボランティアとして協力していただけることとなった。また、お話をする際にも特に話題は決めず好きな事についてお話する雰囲気努めることで、地域福祉サポーター・地域ボランティア・参加者と一体になり話が盛り上がっていた。



成 果

住民が気軽に集まれる場所がないという地域の中で、地域福祉サポーターが主体となり、定期的集まる場所ができた。普段、ひとりで生活をされる方にとっては、「月に一度でもお話ができる場所ができ、楽しみ」という声が聞かれた。参加している住民の方が直接お誘いすることで、また新たな住民の参加が見られ、新たな居場所をつくることができた。

今後の方向性

近隣に集合住宅が並び幅広い世代の方が居住するも、参加していただいている人数は少ない。より多くの方に参加いただけるよう周知・広報活動を行っていく。

(※)「ぜんぜん頑張らないうんどう」

平成 28 年度より養成している「地域福祉サポーター養成講座」にて、平成 29・30 年度は体操の指導者を養成。その指導内容を「ぜんぜん頑張らないうんどう」という。

中高生の居場所づくりの支援

相談内容

- 相談者 ボランティア団体 B
- 相談内容

地域の中で、高齢者や子どもの居場所は増えてきているが、中高生の居場所は地域の中にない。地域として中高生が明るく健やかな成長に寄与することができ、子どもたちの自主的な活動・交流の支援やボランティア育成を行える居場所をつくりたい。

支援の流れ

① 聞き取り

ボランティア団体 B としてではなく、個々の想いが先行している様子であったため、メンバーそれぞれの想いを整理し共有化をはかった。



② 勉強会

具体的なイメージ共有化を図るため、地域福祉コーディネーターが先進事例集を作成し、勉強会の時間をつくった。

③ 先進的取り組みの視察

荒川区にある「ホッとステーション」に同行。

「ホッとステーション」は木曜日に子どもの居場所づくりの活動を行っている。

- ・ 子どもたちの地域社会における人間関係形成のための機会の提供
- ・ 家庭生活や学校生活等に関する日常的な支援と相談の機会の提供
- ・ 児童青少年の地域社会への参画の促進

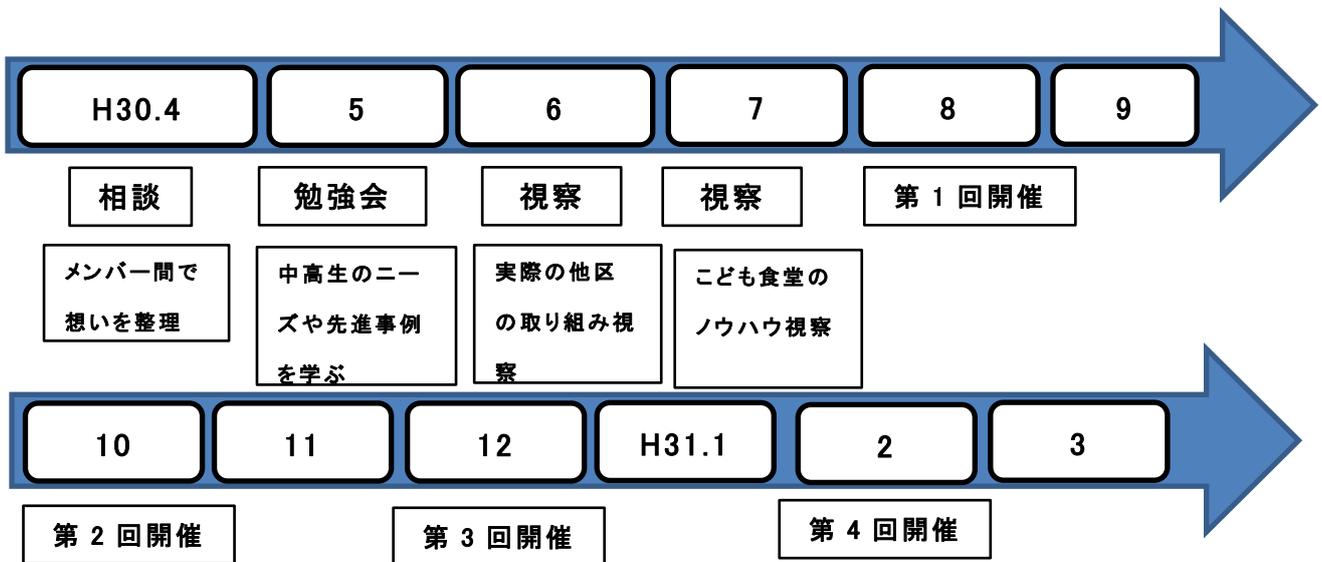
活動を通して地域の大人と子どもの「日常的な関係づくり」を進めている点が、ボランティア団体 B が思い描いている活動と通ずるものであり、具体的なイメージが共有できた。

④ 関係機関の紹介

区内子ども食堂運営者や助成団体とつなぎ、食材の確保、運営アドバイスを受ける。

⑤ 試行的に8月より開始

- ・ 2ヶ月に1回 17時～20時
- ・ 食事の提供とフリートーク



成果

江東区内で初めて、住民主体の中高生の居場所が開設された。また、多世代交流の里・すなまちよっちゃん家での開催となり、地域のつながりの輪が広がっている。

今後の方向性

継続的に訪問を続け、安定した運営ができるよう、収入につながるイベントや寄付を募る方法などのアドバイスをしていく。

フードバンク江東の立上げ支援

相談内容

- 相談者：住民
- 相談内容

東京近県で NPO 法人として、食品ロスとなる非常食や保存水を引取り、平時は、フードバンク（※1）や弱者へ寄贈、災害時は、被災地へ提供する循環資源プロジェクトを行っている。東京近県ではなく自身が住んでいる江東区で「フードバンク江東」を設立したい。食品ロスをなくし必要な人へ食料を届け、「もったいない」を「ありがとう」に変えたい。



災害備蓄品セット

支援の流れ

① 聞き取り

社協への支援要望も含め話をうかがう。

7月に防災備蓄品が1,000個寄贈される予定であり、どのように江東区内で配布できるか調整を行う。

② 試行実施（災害備蓄品）

社協総務課の協力を経て、寄贈品（防災備蓄品）受入確認書（受入希望書）を社協施設会員へ送付。

希望者は、直接フードバンク江東とやりとりし、1,000個配布でき、手応えを得る。

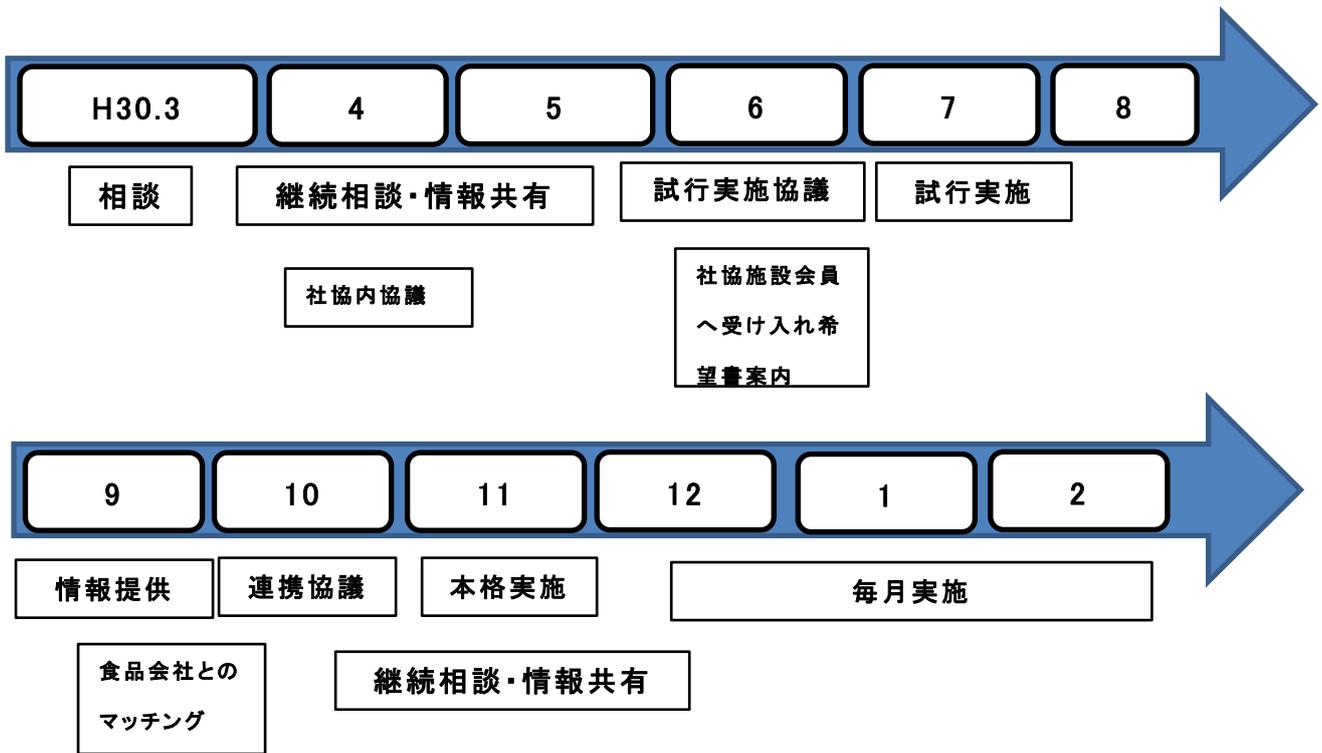
③ 関係機関への紹介

フードドライブ（※2）事業を行っている食品会社から、寄贈先の相談があった際に、フードバンク江東を紹介。双方の話し合いの場を設定し、細かな協議を経て、11月より連携することとなる。

また、民間助成などの資金面の情報提供も行う。

④ 本格実施

月1回食品会社からフードドライブで集まった食料品を回収し、必要な施設等に寄贈が始まるが、品数が少なく、試行実施した時にやりとりした、2~3の施設に寄贈して終わってしまうことが続いている。



成 果

フードバンク江東と食品会社をつなぐことができ、地域での新たな社会資源の創出につながった。それにより、食品を媒体として江東区内で助け合いの活動が循環し始めた。

課 題

食品保管場所が無いことと、食品会社からのフードドライブ品も少なく、小規模で実施状況となっている。

フードバンク江東 (仮称) 設立

いまの日本には置くほどの食品ロスがあります。その総年間で621万トン(426)。なんと世界の食糧援助量の約2倍。さらに、災害対策の備蓄食料が、公共施設や企業のオフィスに3日分備蓄されています。賞味期限が過ぎれば廃棄されます。 6/25/19

一方食料に困っている人が存在します。児童養護施設や女性シェルター、また路上生活者や隠れ貧困など。

❀ 食品ロスをなくしたい！ ❀
❀ 必要な人へ食料を届けたい！ ❀

もったいない(食品ロス)をあげがどうに変えたい！
フードバンク江東はそんな思いを共有できるパートナーを募集します。

設立賛同者
 ○正会員 募入申し込み額となる 103,000円
 ○賛助会員 賛助目的の額入(103,000円)及び 毎月1010,000円 各10以上

事務スタッフ
 ○食料の発着、納入、配達などの事務管理を行う
 ○子育て支援、子ども食費、高齢者への栄養指導、社会福祉協議会など
 ~食料の発着窓口~
 ○江東区内の倉庫会社、運送会社
 ~輸送の一環を行う、配達~
 ○食品メーカー、経銷、スーパー、産直など
 ~保冷設備、検査等がないため生鮮品は届く~

お問い合わせ先：設立事務局 水口 090-2175-0911 mizuuchi@fb0108@-ha.co.jp

(※1) フードバンク
 様々な理由で処分されてしまう食材を、食べ物に困っている施設や人に届ける活動

(※2) フードドライブ
 家庭で余っている食べ物を学校や職場などに持ち寄りそれらをまとめて地域の福祉団体や施設、フードバンクなどに寄付する活動

サロンの立ち上げ支援と波及効果

相談内容

- 相談者 住民・長寿サポートセンター職員等
- 相談内容
麻雀で人とふれあえる場所を紹介して欲しい。

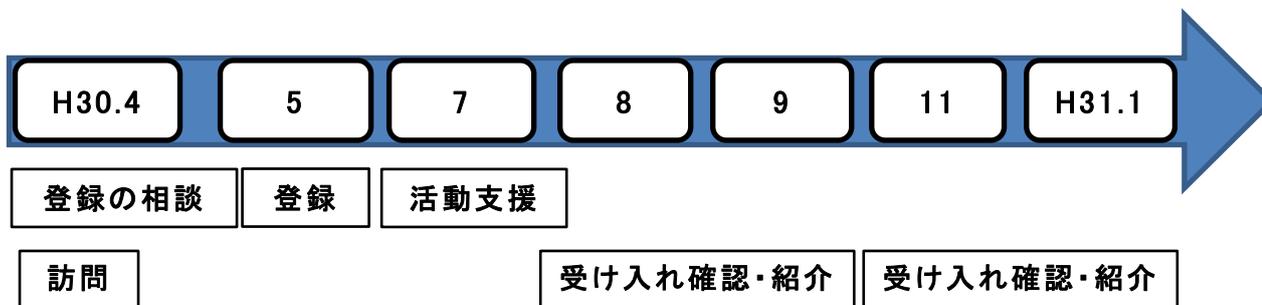
支援の流れ

ふれあい・いきいきサロンとして登録となった住民による健康麻雀のサロン活動が、良い地域資源となっている例である。

4月に立ち上げ支援を行った健康麻雀のサロンCでは、初心者大歓迎のスタンス、代表者の朗らかなキャラクタが広く地域に開かれたサロンとして人気を呼び、他地域からの口コミにより参加するようになった方も多し。ゲームルールに慣れていない方の卓と、初心者がルールを確認しながら楽しめる卓とに分けられており、どんどん上達すると好評で、年に何回かは大会も企画し、とても盛り上がっている。

一般にサロン活動は、主催者も参加者も女性の割合が高いが、麻雀・囲碁・吹き矢・コミュニティガーデン等の活動には男性の参加もみられ、「高齢の父の日中の活動、知人ができる居場所として、麻雀を行っている場所を教えて欲しい」という新規の相談は比較的多い。このサロンCにも、4月の立ち上げ以降問合せのあった方を複数紹介し、個人のニーズと地域資源とをつなぐ活動を行った。

そのうちの1人は、長寿サポートセンターから相談があり、デイサービス等の介護保険の枠組みとは別に日中活動できる居場所として紹介。初回見学時に地域福祉コーディネーターも同行すると、ルールを教わりながら、人との会話を重ねながらゲームを進める様子がとても楽しそうであった。この時は単なる付き添いとして参加していた娘も、場の雰囲気気に入って、今では親子で参加している。



成 果

社協の支援により住民主体の地域活動を立ち上げ、地域で開かれたサロンとして、日中の楽しい居場所を求めている方々のつながりを作ることができた。サロンの登録時から支援していることもあり、担い手との連携もスムーズに行うことができた。

今後の方向性

今後もサロンCにかかわらず、人とのつながりを作るために主体的に何かを行いたい方、居場所が欲しい方などに対し、丁寧にその希望・ニーズを確認し、地域福祉を推進し、地域の方々のつながりを構築していく。

事例 9

地域 支援

連携会議による展開

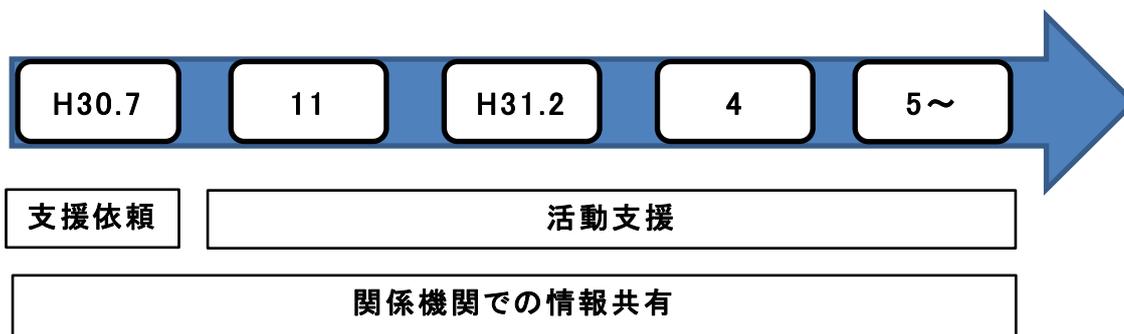
相談内容

- 相談者 長寿サポートセンター
- 相談内容

地域で行われている福祉活動をより活発にするため、江東区・社会福祉協議会・長寿サポートセンターの三者が連携した支援を行いたい。

支援の流れ

江東区・長寿サポートセンター・社会福祉協議会による会議を年に4回行う中で、上記の相談があった。そこでそれぞれどのような支援が出来るのかを話し合った。その支援の一つとして長寿サポートセンターとともに、サポート地域（※）を訪問。長寿サポートセンターは、福祉制度の説明、KOTO 生き粋体操等を行う。社協は、現在行っている事業の説明や地域福祉推進課で開催している社協カフェの案内等を行う。また、別日では体力測定（長寿サポートセンター）・ふれあい・いきいきサロンについての説明を行う。江東区は後方支援として区内の情報提供を行った。



成 果

マンション内において「定期的にこのように住民が集える場所があると良い」との声も聞くことができた。また複数回開催することで、住民同士が顔なじみになり関係を築くことができた。三者間で、定期的な情報交換を行うことにより、スピード感をもって支援することができ、住民が集える居場所について前向きに話し合いをしていくきっかけとなった。

今後の方向性

住民の方の声を形にできるよう関係機関、自治会長と連携を取りながらマンション内において、サロン等の立ち上げについて支援していくことを検討する。

(※) サポート地域

江東区と社会福祉協議会が実施する「高齢者地域見守り支援事業」に登録し、自宅で亡くなり、長期間気づかれない孤独死や、親族や地域と関わりを持たない社会的孤立状態の高齢者を未然に防ぐことを目的に、地域での見守り活動を推進する団体。

地域で作る住民主体の ミニデイへの支援

活動内容

平成 29 年度より江東区の試行事業として開始されたご近所ミニデイ（※）（通所型サービス B）が平成 30 年度より介護予防・日常生活支援総合事業としてスタートした。地域福祉コーディネーターは、開設に伴う支援（活動ボランティアの募集、各ミニデイのチラシ作成等）や、開設後の状況に応じた支援を行っている。

成 果

平成 30 年度末までに 12 団体が立ち上がり、担当地域ごとに、地域福祉コーディネーターが各ミニデイ運営団体との連携を図った。

ミニデイ運営団体の中には、随時、活動について関係機関（江東区・長寿サポートセンター等）と打合せを行う団体があり、地域福祉コーディネーターも参加し、運営上の課題解決に向け、検討・支援を行った。



今後の方向性

江東区では、ミニデイ運営団体・利用者ともに随時募集を行っているため、引き続き、関係機関と連携しながら、開設時とその後の運営支援を行う。

（※）ご近所ミニデイ

要支援者相当の方を対象に、住民主体の団体が高齢者の方の閉じこもりの防止および孤独感の緩和を図ることを目的に、週 1 回 3 時間の心身活性化のための活動（食事あり）を提供することをいう。

